

CBS 220シリーズスイッチのCDP設定

目的

この記事では、グラフィカルユーザインターフェイス(GUI)を使用してCBS220スイッチでCisco Discovery Protocol(CDP)を設定する方法について説明します。

概要

Cisco Discovery Protocol(CDP)は、シスコデバイスが接続されている他のシスコデバイスとデバイス情報を共有するために使用するプロトコルです。これには、デバイスのタイプ、ファームウェアバージョン、IPアドレス、シリアル番号、およびその他の識別情報が含まれます。CDPはデフォルトで有効になっています。

CDP設定は、グローバルに、または個々のポートごとに調整できます。始めましょう！

該当するデバイス | ソフトウェアバージョン

- CBS220シリーズ ([データシート](#)) | 2.0.0.17

CDPプロパティ

手順 1

CBS220スイッチにログインします。



Switch

admin 1

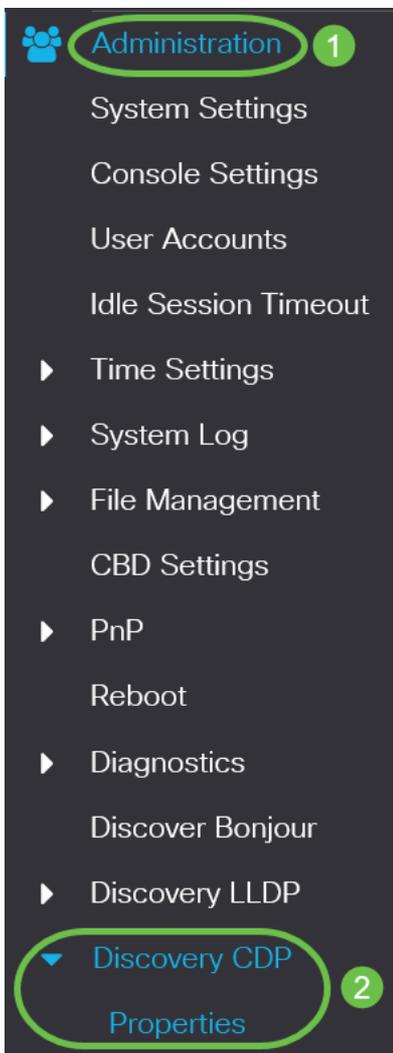
●●●●●●●● 2

English ▼

Log In 3

手順 2

[Administration] > [Discovery CDP] > [Properties]を選択します。



手順 3

[*CDP Status*]フィールドで、[**Enable**]チェックボックスをオンにして、スイッチで CDP をアクティブにします。

Properties

Properties

CDP Status: Enable

デフォルトでは有効になっています。

手順 4

CDP が有効になっていない場合は、スイッチが CDP パケットを受信したときに実行するアクションに対応するオプションボタンを選択します。次のオプションがあります。

- ブリッジング：VLAN に基づいてパケットを転送します。
- フィルタリング：パケットを削除します。
- フラディング：すべての CDP パケットを、発信元ポートを除くすべてのポートに転送します。

CDP Frames Handling:

Filtering

Bridging

Flooding

手順 5

[*CDP Voice VLAN Advertisement*]フィールドで、[**Enable**]チェックボックスをオンにして、CDP が有効で音声 VLAN のメンバーであるすべてのポートで CDP を介してスイッチに音声 VLAN をアドバタイズさせます。

CDP Voice VLAN Advertisement: Enable

手順 6

[*CDP Mandatory TLVs Validation*]フィールドで、[**Enable**]チェックボックスをオンにして、必須 TLV (type-length-value) を含まない着信 CDP パケットを破棄します。

CDP Mandatory TLVs Validation: Enable

ステップ 7

[*CDP Version*]フィールドで、使用する CDP のバージョン ([*Version 1*] または [*Version 2*]) を選択するラジオ ボタンを選択します。

CDP Version: Version 1
 Version 2

手順 8

CDP Hold Timeフィールドで、ラジオボタンを選択して、廃棄される前にCDPパケットが保持される時間を決定します。デフォルトの時間 (180秒) を使用する場合は[デフォルトを使用]を選択し、カスタムの時間を10 ~ 255秒の間で指定する場合は[ユーザ定義]を選択します。

CDP Hold Time: Use Default
 User Defined sec (Range: 10 - 255, Default: 180)

手順 9

[CDP Transmission Rate]フィールドで、ラジオボタンを選択して、CDPパケットの転送速度を秒単位で決定します。デフォルトの時間 (60秒) を使用する場合は[デフォルトを使用]を選択し、カスタムの時間を5 ~ 254秒の間で指定する場合は[ユーザ定義]を選択します。

CDP Transmission Rate: Use Default
 User Defined sec (Range: 5 - 254, Default: 60)

手順 10

[デバイスID形式]フィールドで、ラジオボタンを選択してデバイスIDの形式を決定します。

Device ID Format: MAC Address
 Serial Number
 Hostname

手順 11

[Source Interface]フィールドで、オプションボタンを選択して、発信CDPパケットのTLVフィールドで使用するIPアドレスを決定します。発信インターフェイスのIPアドレスを使用する場合はUse Defaultを選択し、インターフェイスを選択する場合はUser Definedを選択します(選択したインターフェイスのIPアドレスが使用されます)。

Source Interface: Use Default
 User Defined
Interface: GE1

ステップ 12

[Syslog Voice VLAN Mismatch]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにして、音声VLANの不一致が検出されたときにsyslogメッセージを送信します。VLANの不一致は、着信フレームのVLAN情報がローカルデバイスのアドバタイズされた機能と一致しない場合です。

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

手順 13

[Syslog Native VLAN Mismatch]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにして、ネイティブVLANの不一致が検出されたときにsyslogメッセージを送信します。

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

ステップ 14

[Syslog Duplex Mismatch]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにして、デュプレックスのミスマッチが検出された場合にsyslogメッセージを送信します。

Syslog Duplex Mismatch: Enable

ステップ 15

[Apply] をクリックします。CDPプロパティが定義されます。

Properties

Apply

Cancel

Properties

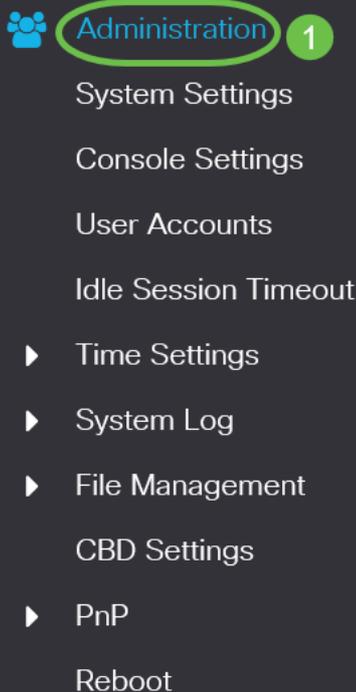
CDP Status: Enable

CDPポートの設定

[Port Settings]ページでは、ポートごとにCDPを有効/無効にできます。これらのプロパティを設定することで、プロトコルをサポートするデバイスに提供する情報の種類を選択できます。

手順 1

[Administration] > [Discovery CDP] > [Port Settings]をクリックします。



手順 2

ポートを選択し、[Edit]をクリックします。

CDP Port Settings Table

2

CDP Local Information Details CDP Neighbor Information Details

Reporting Conflicts with CDP Neighbors

1

Entry No.	Port	CDP Status	Voice VLAN	Native VLAN	Duplex	No. of Neighbors
1	GE1	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	2
2	GE2	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	0

手順 3

[Interface]フィールドには、[CDP Interface Settings]テーブルで選択したポートが表示されます。[ポート(Port)]ドロップダウンリストと[LAG]ドロップダウンリストを使用して、別のポートを選択し、設定するLAGをそれぞれ選択できます。

Edit CDP Interface Settings

Interface: Port GE1 LAG LAG1

手順 4

[CDP Status]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにして、指定したポートでCDPを有効にします。

Interface: Port GE1 LAG LAG1

CDP Status: Enable

手順 5

[Syslog Voice VLAN Mismatch]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにして、指定したポートで音声VLANの不一致が検出されたときにsyslogメッセージを送信します。VLANの不一致は、着信フレームのVLAN情報がローカルデバイスのアドバタイズされた機能と一致しない場合です。

Interface: Port GE1 LAG LAG1

CDP Status: Enable

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

手順 6

指定したポートでネイティブVLANのミスマッチが検出された場合、[Syslog Native

VLAN Mismatch]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにしてsyslogメッセージを送信します。

Interface: Port GE1 LAG LAG1

CDP Status: Enable

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

ステップ7

[Syslog Duplex Mismatch]フィールドで、[Enable]チェックボックスをオンにして、指定したポートでデュプレックスのミスマッチが検出されたときにsyslogメッセージを送信します。

Interface: Port GE1 LAG LAG1

CDP Status: Enable

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

Syslog Duplex Mismatch: Enable

手順8

[Apply] をクリックします。変更は、指定されたポートに適用されます。

Edit CDP Interface Settings

Interface: Port GE1 LAG LAG1

CDP Status: Enable

Syslog Voice VLAN Mismatch: Enable

Syslog Native VLAN Mismatch: Enable

Syslog Duplex Mismatch: Enable

手順9

ポートの設定を別のポートに迅速にコピーするには、そのラジオボタンを選択し、[設定のコピー(Copy Settings)]アイコンをクリックします。「設定のコピー」ウィンドウが開きます。

CDP Port Settings Table

2

CDP Local Information Details CDP Neighbor Information Details

Reporting Conflicts with CDP Neighbors

1

Entry No.	Port	CDP Status	Voice VLAN	Native VLAN	Duplex	No. of Neighbors
1	GE1	Enabled	Enabled	Enabled	Enabled	2

手順 10

テキストフィールドに、指定したポートの設定をコピーするポートを（カンマで区切って）入力します。ポートの範囲を入力することもできます。[Apply] をクリックします。

Copy Settings

Copy configuration from entry 1 (GE1)

1 to: (Example: 1,3,5-10 or: GE1,GE3-GE5)

2

結論

それだ！ CDP設定は、グローバルに、またはCBS220スイッチの個々のポートで正しく設定されています。

その他の設定については、『[Cisco Business 220シリーズスイッチアドミニストレーションガイド](#)』を参照してください。